

May 20-21, 2017 信州に遠征：希少チョウを観察

チョウ歴 60 年にして、まだ実際に野外で飛んでいる姿をみたことがない、オオルリシジミ（絶滅危惧 I A 類）の観察目的で、信州まで遠征。オオルリシジミに関しては、地元の保護団体が開く一般公開の「観察会」に便乗させてもらって、保護の実態を視察することも目的の一つ。5 月 20 日、まずは、オオルリシジミが自然状態で飛ぶ姿がみられるという「あずみの国営アルプス公園」へ。シルバー入園料 210 円を払って園内を 15 分ほど歩いた池のほとりにクララが複数株あるがそこにオオルリシジミの姿はなく、やがてメンバーの一人がシロツメクサで吸蜜中の個体を見つけてくれる。新鮮度がよくはない個体で、飛翔時以外に翅表を見せてはくれない。しばらく観察して見られる個体は 2-3 頭であることが分かり、ようやくまずまずの新鮮度の個体の吸蜜シーンを記録できる。結局絵になるクララとチョウとの組み合わせを見ることがないまま、明日の、東御市での観察を期待して撤収。クモマツマキチョウとオオルリシジミの観察に夢中となって、気がついたら昼食を全くとってなく、宿泊先の夕食バイキングで 18 時過ぎからようやくすきっ腹を存分に満たす。

翌 5 月 21 日も朝から雲一つない好天気で、観察会が始まる 9 時より早い時間に現地に着き、主催者の H さんに挨拶をしたあと、すぐにクララの多い草地へと向かう。先行したメンバーがもうカメラを向ける先には、待望のクララの葉上で日向ぼっこをしているメス個体。他の場所でもすでに複数の飛翔個体がみられ、メンバーの一人はニガナに似た黄色い花で蜜を吸う個体の撮影をしている、その手前のクララにチョウ影を認め、よくみれば交尾ペアが。すぐに声を上げてみんなに知らせてあげると、横浜からだというご夫婦もかけつけて撮影に専念される。同じクララにはオス個体もいて、V 字開翅姿勢をとってサービスしてくれるのでしっかりと記録。交尾ペアには新たなオス個体がちょっかいを入れ、次いで別のオス個体も絡むなど訳の分からない展開を見るが、その中で交尾中のオスが「いい加減にしてよ」と開翅しながら嫌がる光景を切り取ってみる。この保護地では、当初の放蝶が必要ではないほどに自然発生状況が復活できているという



うれしい話も聞く。9 時からの観察会には支援企業側から今年入社したという大勢の若者が参加して、遠くで飛ぶのがモンキチョウというモンシロチョウの仲間だとか、アカツメクサにやってきたウラギンヒョウモンの裏を見れば名前の意味がわかるなどと説明をしてやると目を輝かせる。初歩的な質問をしてくれたり、元気いっぱいの若者と接することは楽しく、小さなお嬢さんとみえている若いお母さんには、大勢でカメラを向ける先にオオルリシジミがいますよと教えてあげ、横方向に動いてチョウに飛ばれてしまっている男性には、チョウに近づく際には直線方向にだけ動くようにとアドバイスをしたり、せっかくの観察会が有意義に展開するよう陰ながら手助けをする。今回の遠征は、自然の中で飛ぶオオルリシジミを初めて観察でき、満足のいく映像記録が撮れて当初の目的を確実に達成できたすばらしい旅となった。遠距離を交代しながら運転をしてくれた 3 人の仲間に関心から感謝したい。

